

令和3年度 学校努力点全体計画

1 研究主題

学習課題を捉え、確かに理解し適切に表現できる児童の育成 ～3場面での指導の工夫を通して～

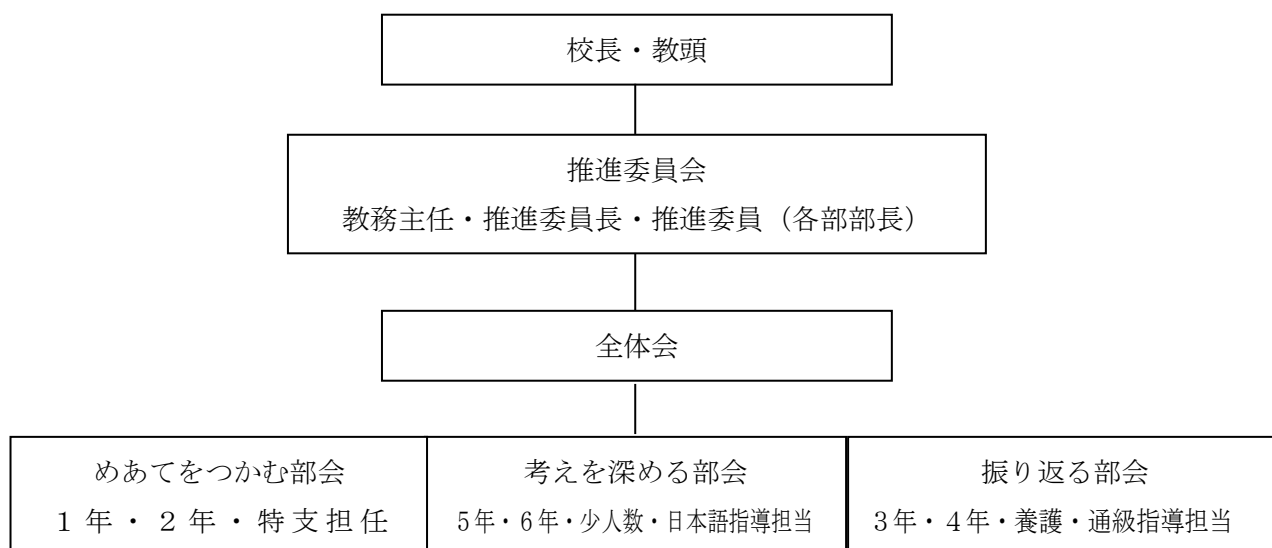
2 研究のねらい

本校では今年度、「学習課題を捉え、確かに理解し適切に表現できる児童の育成」を目指す。学習課題を捉え、確かに理解し適切に表現できる児童とは、目的意識をもって学習に向かい、他者との関わりによって自分の考えを深め、振り返ったことを表現できる児童のことである。学習課題を捉え、確かに理解し表現できれば、考えを明確にしたり広げたりすることにつながると考える。

昨年度は、「学習課題を捉え、問題を解決することができる児童の育成」というテーマで、3場面での手だての工夫を行った。その結果、算数科において、児童が自ら問題の解決に向かい、学習内容の理解を深め、「自分がどのように考えたのか」「どのようにしてできるようになったのか」を振り返ることができるようになってきた。しかし、十分に学習内容を理解することができていない児童も見られた。3場面でのそれぞれの工夫を、他教科でも行っていく必要があると考える。そして、それぞれの場面で考えたことを表現させ、検証する必要があると考える。

そこで本年度は、国語科において、「めあてをつかむ場面」「考えを深める場面」「振り返る場面」の3場面で手立てを工夫し、どのように考えたのかを表現させる活動を取り入れることで、目指す児童に迫りたい。

3 推進組織



4 推進計画

月	推進委員会・全体会	各部会
4月	4/6 推進委員会① ・今年度の研究主題・推進計画の決定 ・研究の進め方についての協議 4/9 全体会① ・研究主題・研究の進め方の共有 ・推進組織・推進計画の確認	4/9 部会① ・各部の研究計画の検討 ・授業者の決定（前期・後期） ・単元、手立て、検証方法の検討
5月		5/6 部会② ・単元、手立て、検証方法の検討 ・前期実践指導案作成（～5/24） 5/24 部会③ ・前期実践指導案検討 ・授業日の決定・報告
6月		・前期①実践（～6/25） ・前期①実践終了後手立ての見直し ・前期②実践（～7/2）
7月		7/19 部会④ ・前期実践の分析・後期実践に向けて手立ての改善についての検討 ・中間報告書の作成（～10/1）
8月		・後期実践指導案作成
9月	9/2 推進委員会② ・中間報告のまとめ方の確認 ・中間報告の進め方についての協議	9/13 部会⑤ ・後期実践指導案検討 ・授業日の決定・報告 ・中間報告の発表準備（10/1 提出期限）
10月	10/7 全体会② ・各部の取り組みの中間報告 10月中 ・努力点だよりの作成・発行（教務）	・後期①実践（～11/19） ・後期①実践終了後手立ての見直し ・後期②実践（～11/26）
11月		
12月	12/22 推進委員会③ ・学校評価結果の分析と次年度案の検討 ・最終報告のまとめ方の確認 ・最終報告の進め方についての協議	12/20 部会⑥ ・後期実践の分析・検討（成果と課題） ・最終報告書の作成（～2/14）
1月	1/7 推進委員会④ ・次年度の研究主題・推進計画の検討	2/7 部会⑦ ・最終報告の発表準備（2/14 提出期限）
2月	2/17 全体会③ ・各部の取り組みの最終報告 2/24 推進委員会⑤ ・次年度研究主題・推進計画の最終検討 2月中 ・努力点だより作成・発行（教務）	
3月	3/3 全体会④ ・次年度研究主題・推進計画の提案	

5 研究の方法と内容

(1) 授業実践の手立て

それぞれの部会で手立てを考え、実践を行う。

○ めあてをつかむ場面

場面提示の仕方を工夫することで、「〇〇について考えたい」「書いてみたい」「伝えたい」のように目的意識（問い）をもって学習に向かうことができるようにする。児童の目的意識は「めあて」として、集約して明確に板書する。

＜検証＞ 目的意識（問い）をもって学習に向かうことができたか、記述から検証する。

○ 考えを深める場面

自分の考えをもった（自分の立場を決定した）後、**他者と比較して、共通点や相違点を明らかにできるような対話のもち方を工夫**することで、考えを深めることができるようにする。

＜検証＞ 自分の考えを深めることができたか、記述から検証する。

○ 振り返る場面

まとめの後、**振り返りの視点の与え方を工夫**することで、「初めに考えたことがどのように変容したのか」「どのようにして考えを深めることができたのか」を振り返ることができるようにする。

＜検証＞ 「初めに考えたことがどのように変容したのか」「どのようにして考えを深めることができたのか」を振り返ることができたか、記述から検証する。

(2) 授業研究について

- ・部会内での参観授業は4回行う。（前期①・前期②・後期①・後期②）

- ・各部会の異なる学年で、主となる授業者2名を決める（**部長は除く**）。主の授業者は前期と後期に分かれ、**前期②と後期②**の実践を行う。同学年のもう一人の授業者が**前期①・後期①**の実践を行う。

- ・各部会で手立てと検証方法を検討・決定し、指導案を作成する。

- ・授業日の希望は、前期が5/24まで、後期が9/13までに教務主任に伝え、調整する。

- ・指導案は主の授業者が作成し、部会で検討する。その指導案を用いて**①の授業者が初めに授業を行う**。授業（前期①、後期①）を基に改善した指導案で、主の授業者が授業（前期②、後期②）を行う。

- ・指導案は略案とし、2日前までに職員へ配布する。